

緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和八年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編収録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニヨリ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ収録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス。

昭和十年三月

福井縣總務部

昭和八年福井縣統計書 第四編

凡 例

本編ハ昭和八年又ハ昭和八年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和七年若ハ昭和七年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「-」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和八年 福井縣統計書

第四編 (警察衛生等) 目次

總 說	1
警 察	
1 警察部職員(現員)	3
2 警察署職員配置(定員)	3
3 警部補・巡查勤続年數及俸給	4
4 警部補退隱料遺族扶助料及諸給	4
5 巡查退隱料遺族扶助料及諸給	5
6 巡查採用及教習	5
7 警察上ノ賞與	5
8 警察共濟組合救濟金	6
9 警察上死傷者	6
10 警察電話	7
11 令狀執行件數	7
12 諸犯罪發生及檢舉件數	8
13 諸犯罪及檢舉人員	8
14 諸犯罪別檢舉件數	9
15 未成年者喫煙禁止法違反	9
16 檢 視	10
17 檢 證	10
18 檢視者及檢證者	11
19 盜 難	11
20 盜 難 物	12
21 盜難物發見	12
22 賊捨置物	13
23 變 死	13
24 自 殺 者	14
25 年 齡ニ分テタル自殺者	15
26 原因ニ分テタル自殺者	15
27 救 護	16
28 密賣淫及媒合容止者處分	16
29 行政執行處分	17
30 説諭及保護	17
31 取締諸營業者數	18
32 遺失物處分	18
33 火 災	20
34 火災原因	20
35 火災損失及死傷	21
36 消 防 組	22
37 銃砲及火藥類免許賣買	22
38 狩獵免狀下附人員	23
39 捕獲鳥獸數	23

40 貸座敷及藝娼妓數	24
41 演劇興行	24
42 寄席興行	24
43 活動寫真興行	24
44 質屋及質物	25
45 質屋及古物商取締法ニ依ル徵收物件	25
46 集會及結社	25
47 宿屋宿泊人員	26

衛 生

48 醫 師	26
49 齒科醫師	27
50 藥劑師・藥種商・製藥者・阿片販賣者	28
51 賣 藥	28
52 入齒抜齒口腔治療接骨及鍼灸按摩	29
53 看 護 婦	29
54 產婆看護婦理髮試驗	30
55 產 婆	30
56 鍼術灸術按摩術試驗	30
57 トラホーム檢診成績	31
58 トラホーム患者	31
59 トラホーム患者治療	32
60 結核健康診斷成績	32
61 傳染病患者	33
62 傳染病患者死者年齡別	33
63 娼妓健康診斷	34
64 花柳病患者	34
65 中 毒	36
66 屠殺檢査	36
67 衛生試驗	37
68 病 院	37
69 病院患者病類別	38
70 傳染病院及隔離病舎	39
71 藥品巡視	38
72 種痘ノ一(第一期)	40
73 種痘ノ二(第二期)	40
74 娼妓病院	41
75 衛生ニ關スル諸犯罪處分別	41
76 死亡總數ト結核病死亡者數トノ比較	42
77 マラリヤ患者年齡別	42
78 マラリヤ治療方法別	43

工 場

79	工場臨検	43
80	適用工場數年次比較	44
81	警察署別適用工場數	45
82	警察署別適用工場職工數	46
83	常時職工十人未滿使用ノ危険及衛生 上有害ナル工場並職工數年次比較	48
84	寄宿舎ノ設アル工場數及寄宿職工數	48
85	職工扶助金額	49
86	工場主ノ管理スル職工貯蓄金	49
87	工場災害	50
88	工場法違反	52
89	取締原動機	52

健康 保 險

90	工場事業場事業及被保險者數	53
91	業態別工場事業場事業及被保險者數	53
92	保險給付	54
93	標準報酬等級別被保險者數	54
94	被保險者數別工場事業場及事業數	54
95	傷病類別療養給付件數日數及休業日數ノ一(業務上)	55
96	傷病類別療養給付件數日數及休業日數ノ二(業務外)	55
97	死亡原因傷病類別數	56

雜

98	新聞及雜誌	57
----	-------	----

總 說

警 察

警 察 區 劃

昭和八年末現在ニ於ケル縣警察行政區劃ハ其ノ監督廳タル警察部ノ下ニ警察署十三、警部補派出所三、巡查部長派出所十六、巡查派出所二十三、巡查駐在所百五十九ヲ置キ一市百七十七箇町村ノ警察事務ヲ管理セシメ以テ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ縣民ノ福祉増進ニ努メツ、アリ。

警 察 官 吏

昭和八年末現在ノ警察官吏ハ警察部長一人、警視四人、專任警部二十二、警部補三十一、巡查部長八十一、巡查四百十二人ニシテ前年ニ比シ警部補一人ヲ増セリ

巡 査 勤 績 年 數

昭和八年末總數四百九十三人中五年以上十年未満百九十二人(三分九厘)最多ニシテ之レニ亞ク十年以上十五年未満七十八人(一分六厘)ニシテ一年未満四十四人(九厘)二年以上三年未満四十一人(八厘)一年以上二年未満三十七人(七厘)五年以上二十年未満二十九人(六厘)四年以上五年未満二十四人(五厘)三年以上四年未満二十三人(五厘)二十年以上二十五年未満十四人(三厘)二十五年以上十一人(二厘)等ナリ。

火 災

昭和八年中ノ火災度數ハ247件、内失火ハ218件、放火14件、雷火不審火ハ15件ニシテ其損害ハ868.393圓ナリ、之ガ原因別ニ見レバ炬燵ノ不始末32件、焚火ノ不始末27件、小兒ノ弄火25件、取灰ノ不始末24件、煙突ノ飛火18件、放火14件、乾燥室13件等多數ヲ占ム而シテ其ノ主ナル燒失家屋ハ福井中學校、大野郡勝山町聲光寺、同郡勝山成器女子小學校等ナリ。

消 防 組

昭和八年末現在ノ消防組ハ174組部數595、組員20.056人ヲ以テ組織ス。前年ニ比スレバ1組、34部組員476人ヲ増加シ、自動車唧筒6臺ガソリン唧筒25臺ヲ増加セリ。

衛 生

醫 師

昭和八年末現在ニ於ケル醫師ノ總數ハ四百三十七人(内女醫十五人)ニシテ醫師一人ニ對シ現在人口ハ千四百十四人ニ當レリ、而シテ之カ分布狀況ヲ觀ルニ福井市百二人、坂井郡五十九人、今立郡五十人、大野郡三十五人、敦賀郡三十四人ハ多キ地方ニ屬シ大飯郡五人最モ尠シ。之レヲ經歷別ニ觀レバ大學卒業百十七人(二割六分七厘)官公立專門學校卒業二百二十四人(五割一分)試験及第八十三人(一割八分九厘)其ノ他十三人(三分四厘)ナリ。

齒 科 醫 師

昭和八年末現在ニ於ケル齒科醫師總數ハ九十七人(内女齒科醫師五人)ニシテ前年ニ比シ五人増加セリ。其ノ經歷ハ官立私立專門學校及外國學校卒業者ヲ併セ五十八人試験及第三十九人ナリ。

ト ラ ホ ー ム 檢 診

昭和八年中ニ於ケル「トラホーム」檢診人員ハ七萬七千四百七十二人ニシテ内患者ト決定セル人員ハ六千三百二人ナリ。而シテ檢診人員百ニ對スル患者ハ八人一四(前年十一人九七)ノ割合ナリ。患者ト決定セル人員中重症五百二十一人(八分三厘)輕症四千五百八十九人(七割二分八厘)疑似症一千九十二人(一割八分九厘)ナリ。

傳 染 病 患 者

昭和八年ニ於ケル傳染病患者數ハ三百八十四人ニシテ前年ニ比シ十一人減少セリ。而シテ腸チフス最モ多ク二百二十三(五割八分一厘)ヲ占メ「ダフテリア」九十人(二割三分四厘)之ニ亞キ赤痢四十八人(一割二分五厘)猩紅熱十一人(二分九厘)「バラチフス」九人(二分三厘)流行性腦脊髓膜炎二人(五厘)瘧疾一人(三厘)ナリ。又各患者百人中死亡者ノ割合ヲ觀レバカノ如シ。

腸チフス 22.87 ダフテリア 15.55 赤痢 18.75
猩紅熱 9.08 バラチフス 22.22 流行性腦脊髓膜炎 100.00

花 柳 病 患 者

昭和八年中病院又ハ開業醫ニ於テ取扱ヒタル花柳病患者ハ一萬七百一十一人ニシテ内男七千七百七十七人(六割七分二厘)女三千五百三十四人(三割三分)ナリ。之ヲ前年ニ比スレバ男九百四十四人(一割五分)女五百三十五人(一割七分八厘)共ニ何レモ増加シ總數ニ於テ千四百七十九人(一割六分)ヲ増加セリ。

病 院

昭和八年末現在病院數ハ十二ニシテ年内患者總人員ハ六萬二千七百一人ナリ。之ヲ前年ニ比スルニ六千二百六十二人ヲ増加セリ。患者ヲ病類別ニ觀レバ神經系及五管病一萬三千百三十九人(二割九厘)最モ多ク呼吸器病ノ一萬二千七百七十七人(一割九分四厘)泌尿及生殖器官病一萬二千四百二十四人(一割六分一厘)消化器病九千五百二人(一割五分二厘)ヲ主ナルモノトス。而シテ呼吸器病ノ内肺病ハ千八百五十九人ナリ。

工 場

適 用 工 場 及 職 工 數

昭和八年十月一日現在ニ於ケル工場法適用工場ハ二千六百一十一工場ニシテ内工場法施行規則第二十七條ニ依ル法ノ一部適用工場ハ九百六十七工場ナリ。之等工場ヲ業務別ニ依リ大別

總 説

スレハ染織工場千七百六十五、機械器具工場九十六、化學工場七十四、飲食物工場九、雜工場百六十、特別工場五十七、ニシテ染織工場ハ總工場數ノ八割二分弱ヲ示ズ。而シテ之ヲ前年ト比較スルニ二百九十一工場ヲ増加セリ。

尙之等工場ニ使用セラルル職工數ヲ見ルニ三萬九千三百三十六人ニシテ内工場法一部適用工場ニ使用セラルルモノハ五千四百六十四人ナリ又之等職工ヲ業務別ニ大別スレハ染織工場ニ使用セラルルモノ三萬六千六百四十一人、機械器具工場ニ五百九十八人、化學工場ニ千六十六人、飲食物工場ニ百五十人、雜工場ニ六百二十三人、特別工場ニ二百五十八人ニシテ之ヲ前年ニ比較スルニ四千五百七十四人ノ増加ナリ。

工場災害

昭和八年中ニ於ケル工場災害中職工ノ死傷總數ハ百五十三人ニシテ内死亡ハ女一人ナリ之ヲ前年ト比較スルニ死亡ニ於テ二人負傷ニ於テ六十七人ノ減少ヲ示セリ。

職工扶助金額

昭和八年中工場法ニ依リ工業主ニ於テ扶助シタル總金額ハ二千九百九拾六圓ニシテ前年ニ比較シ九百四十四圓ノ減少ナリ。

原 動 機

昭和八年末ニ於ケル工場及原動機取締規則ニ依ル取締原動機ハ總數六千二百四十四、總馬力二萬九千八百馬力ニシテ前年ト比較スルニ原動機四百五十五、二千五百一十一馬力ノ増加ナリ。

健康保險

被 保 險 者

昭和九年三月末ニ於ケル管内政府管掌被保險者ノ總數ハ二萬七千九百一十一名ニシテ本年度内ノ異動狀況ハ資格取得ニ依リ増加セルモノ一萬三千七百七十四名、資格喪失ニ依リ減少セルモノ一萬九百八十六名ニシテ差引前年度末ニ比シ二千八百八十八名ヲ増加セリ。

工場事業場及事業

昭和九年三月末ニ於ケル健康保險關係工場、事業場及事業ノ總數ハ一千九百四十四ニシテ前年度末ニ比シ七十九増加セリ。工場數ハ累年遞増セルモノナルガ本年度ノ増加率ハ例年ニ比シ著シク高ク業界好況ノ一反映現象ト見ルコトヲ得ベシ。而シテ工場ノ大部分ヲ占ムルハ染織工場中ノ織物業ニシテ其ノ數七百七十九、總數ノ七割一分二厘ニ當リ前年度ヨリ三分高ク、次ハ製材ヲ主トスル木竹莖及莖製品業ノ百十六、器具製造業ノ二十四、金屬品製造業ノ二十二ノ順位ナリ。事業場ハ金屬山ノ四アルノミニテ、任意包括被保險者ヲ使用スル事業ハ十アル。

標準報酬

被保險者ノ標準報酬等級ハ四級ノ者(五十五錢以上)最モ多ク六千六百七十八名ニシテ總數ノ二割四分ニ相當シ、次テ三級ノ者(四十五錢以上)ノ六千四百三十九名、以下五級ノ者(六十五錢以上)ノ四千七百七十四名、二級ノ者(三十五錢以上)ノ三千九百四十五名ニシテ最モ少キハ十六級(二圓七十五錢以上)ノ一名ナリ。而シテ之ガ平均日額ハ男八十五錢一厘、女五十六錢四厘ニシテ男女總平均日額ハ六十三錢八厘ニ當リ前年度末ニ比シ三錢六厘方低ク下ヲ見タリ。

保 險 給 付

昭和八年度中ニ於ケル保險給付ノ總件數ハ九萬三千五百二十一件ニシテ之ニ要シタル費用ノ總額ハ本廳拂ノ分ノミニテ十一萬七千六十圓(外ニ政府支拂醫療費本縣分約二十萬一千圓アリ)ナリ。療養給付件數及日數ハ被保險者ノ増加ニ伴ヒ増加セルガ傷病手當金ハ前年度ヨリ反ツテ減少シ費用額ニ於テ約一萬圓減額セリ、而シテ從來ノ傾向ニ徴スルニ傷病手當金額ハ分娩關係給付金ヨリ多額ナルニ本年度ハ分娩關係給付金ハ傷病手當金ヲ凌駕スルノ新現象ヲ呈シ、之ヲ比率的ニ見ルキハ前年度ニ於テハ總支出金額ニ對シ傷病手當金ハ19%、分娩關係給付金ハ16%ナルニ本年度ニアリテハ傷病手當金ハ總支出金ノ14%ナルニ分娩關係給付金ハ17%ヲ示セリ。

療養ノ給付中件數ノ最モ多キモノハ感冒ノ一萬一千八百件ニシテ以下胃加答兒ノ八千六百件、腸加答兒ノ七千百件、トラホームヲ除ク眼及其ノ附屬器疾患(結膜、角膜炎ノ類)急性氣管支炎四人六百件、トラホーム三千八百件ノ順位ニシテ總數八萬一千件前年度ニ比シ五千件ヲ増加シ此ノ療養總日數一百萬日ニ達ス。埋葬料(費)支給總件數ハ三百四十二件ニシテ前年度ヨリ五十二件ヲ増加シ中最モ多キハ肺結核ノ九十七件、以下消化器疾患ノ四十七件、肺炎ノ三十六件、腸結核ノ二十七件、腦膜炎ノ十八件ノ順位ナリ。